

2025年2月ハイパーカレンダーレポート

[「おおいた AI テクノロジーセンター」の大賞ノミネート](#)について1月のカレンダーでお知らせしていたが、2月5日に[第7回日本オープンイノベーション大賞](#)の表彰式が内閣府講堂で開催された。ハイパー研からもノミネータピッチに参加して、審査員特別賞を受賞した。また AI センターでは [Oita AI Café](#) の運営や大分県立久住高原農業高等学校の[大分県の秘湯×サフランで美と癒し・ちょっと贅沢なコスメをつくりたい!](#)にも取り組み始めている。なんと大分県はサフラン生産日本一なのである。誰もが気軽に GPU を使いこなす地域となる活動が漸く実を結んできているのがうれしい。企業の大人だけでなく、大学の研究だけでなく、高校でも AI はどんどん身近な存在となっているのだ。さらに効果を上げていくためには、この AI センターが単体としての動きではなく、他の機関やプロジェクトとどれだけ横繋がりが出来るかにかかっている。例えば、大分県教育委員会には「[ICT 教育サポーター育成プラットフォーム](#)」という、高校生の一人一台タブレットを有効活用するために授業支援を行う組織がある。AI センターとは密接にコラボレーションしているのだ。公共事業だとプロジェクトごとに活動や予算の範疇を明確化しなければならない。隣のプロジェクトと重なり合う曖昧さは敬遠される。しかし、この AI センターは物理的な場所でも事業でもなく、人が結びつく会議体かつ活動体なので、いろんな場面で繋がる事が出来るのだ。

総務省では、[地方の中小企業を支援するための海外展開事業（地方枠）](#)というのを昨年度から実施している。ハイパー研では、昨年度ネパール、今年度はエチオピアとインドへ進出しようという地方企業をサポートしてきた。両国において調査と実証実験を行った2社は十分な成果を上げて2月末に事業終了した。特に[エチオピアで活動するローカルメディアラボは国立アブロート図書館と MOU を締結](#)、次年度も継続して活動することが決まっている。国際標準である III F に準じたデジタルアーカイブの構築と人材育成である。人類の起源はじめすべてのものの起源を標榜するプライド高きエチオピアは、12件もの世界遺産を有し、博物館、図書館、数多くのエチオピア正教会における貴重な資料は膨大な数にのぼる。それらが無造作に展示保存されていて、日本の地方企業の活躍が期待されているのである。



(文責：青木栄二)